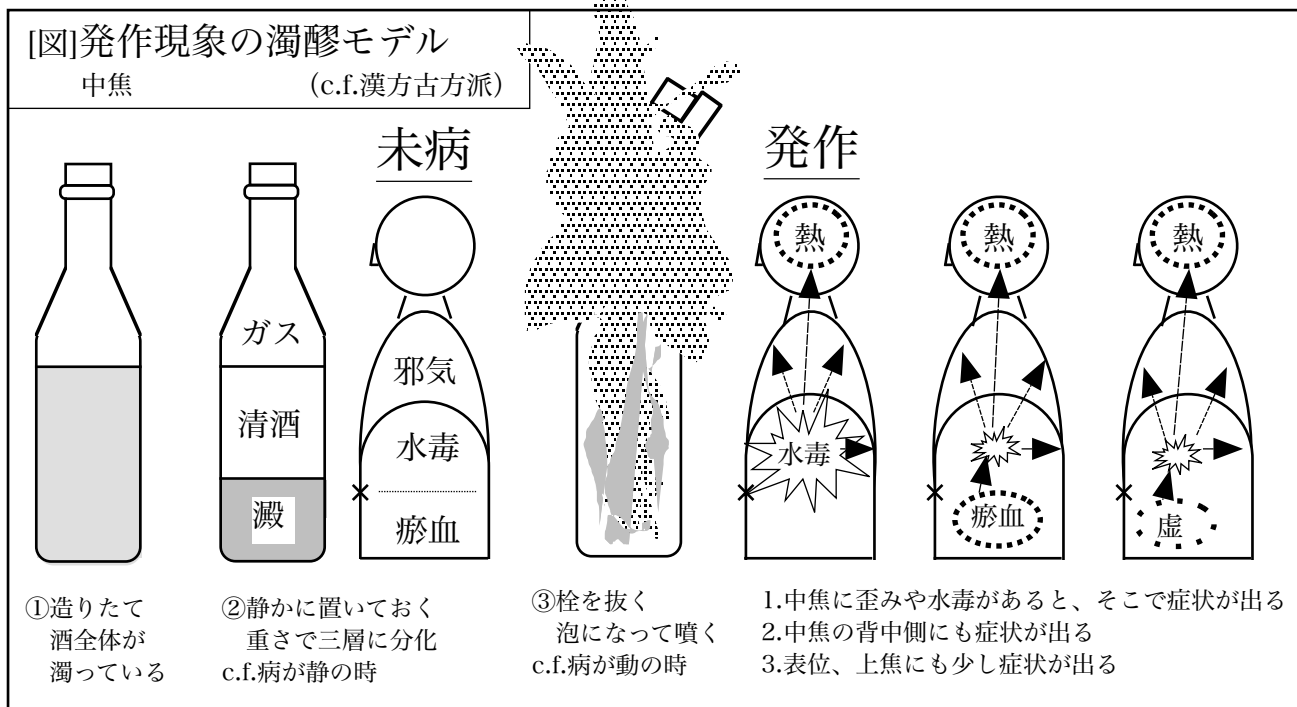


[16] 内科系急性期 3.中焦 腹痛



(1) 中焦の急性症状

- ① 上衝した邪気が、中焦部分の歪みを刺激し、中焦部分で激しい症状が出ている
- ② 表位にも熱などの症状が出るが、中焦の症状の方が激しい。
- ③ 中焦の横輪切り、特に背中側にもツボが出るし、中焦に関係する手足陰経にもツボが出る
- ④ 中焦で動いている、主な邪毒は、邪気・水毒
- ⑤ 邪気の発生源は、中焦の水毒、下焦の瘀血、虚などで、慢性期にはそれらへの処置が必要

(2) 中焦の急性症状に対する基本処置

- ① 中焦から上で動く邪気を体の外に引き出し、上衝を鎮める→末端への引き鍼+表位の散鍼
- ② 中焦に関係する手足陰経に引き、横輪切りの、特に背中側に引く (ルート工作)
- ③ 手早い刺鍼が大切 (邪気の波が来終わった時点で刺鍼を止める)

(3) 実技と手順：姿勢は、患者さんが取っている姿勢が基本 (背を丸めた座位、横向き寝が多い)

- ・ 急性期の応急処置：体が大きく動くときや子供の場合は、接触鍼か提鍼

手甲(*1) →手陰経.手首付近(*2) →足(陰経→陽経)(*3) →中焦背中側(*4) →肩頸頭・散鍼→手甲

*1：頭のはちまきする辺りを持って熱い所に経絡的に関係するツボ

*2：主に手甲刺鍼側の内関

*3：基本は足首から先。陰経は、商丘、公孫、陰白など、接触鍼も可。陽経は内庭など。

*4：背を丸め耐えることが多く、背中側のいちばん出っ張った辺りにツボを探す

昔から「背の七、九、十一」。ただし現在は華陀経が多い。左右差があれば、痞根も (☆) 応急処置後数時間以内に痛みが復活する時は、器質性病変を疑い、救急医療と連携